

124回目の誕生日 ～創立記念日を迎えて～

夏 目 裕

1889年に関西学院が誕生し、今年 124 回目の誕生日（創立記念日）を迎えます。私たちは毎年その日を覚え、礼拝を守っています。人も毎年誕生日を迎え、それぞれにそのことを祝い、早天祈祷会でも誕生日を迎える教職員や学生のことを覚え、祈りを共にしています。人の誕生日と同じように、これまで多くの人たちが守り、育ててきた関西学院の誕生日を祝うことはとても大切なことです。

誕生日というと、私は、人の誕生日はその日まで生きてきたことを思い祝う、学校の誕生日はその日からのさらなる発展を願い祝う、といった意味合いが強いように思います。それでは 124 回目の誕生日を迎えた今年、記念事業が行われる来年の 125 回目の誕生日に向けて、私たちはどんな思いを持って歩んでいくのでしょうか。

関西学院もそのひとつである、いわゆるミッション・スクールは明治時代以来、長い年月を生き抜いてきました。その間、果たしてきた役割や存在意義といったものは変化し、かつてミッション・スクールが“売り”としていた外国語などは、今やあたりまえのことになりました。それでは、これから関西学院のミッション・スクールとしての存在感は何で示していけるのでしょうか。

21 世紀は「心の時代」といわれています。経済的に行き詰まってくるとそんなことがいわれるのかもしれませんが、これから人が共生していくうえで一番重要になるのは「心」ではないでしょうか。人がモノやカネ、情報や知識に埋もれたときに、「心の豊かさ」が重要になります。心の通じ合った意思決定の重要性が増し、心のこもったコミュニケーションが求められるようになるでしょう。

そんな時代にこそ、ミッション・スクールの存在感を示す道があるのではないかと思います。具体的な教育内容に特徴を持たせていくことは必須かつ重要なことです。しかし、ミッション・スクールは、加えてキリスト教主義による心や精神に響く教育を行うことを“売り”にすることができるのではないのでしょうか。

関西学院は Mastery for Service を体現する世界市民を育むことをミッションとしています。そのために必要な知識や技能を身につけるとともに、あわせて「心の豊かさ」を養うことのできる環境が関西学院にあることを“売り”にする。

そんなことを思い描きつつ、125 回目の記念の誕生日を迎えませんか。

(吉岡記念館事務室次長)